

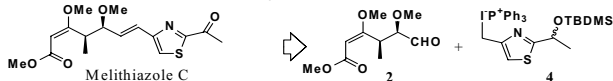
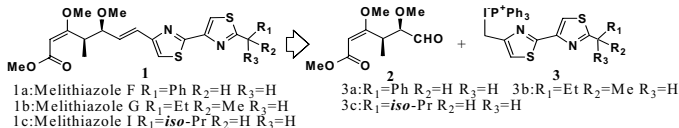
### 31【P1】I-008

Melithiazole C, F, G, I の全合成

○高山 博之<sup>1</sup>, 加藤 恵介<sup>1</sup>, 秋田 弘幸<sup>1</sup>(<sup>1</sup>東邦大薬)

【目的】 Melithiazole 類は *Melittangium lichenicola*、*Archangium gephyra*、*Mycococcus stipitatus* より単離された、抗真菌活性を有する一群の抗生物質である。先に我々は 4-yne-1-ol の Pd(II) 触媒下の環化-カルボニル化反応<sup>1)</sup>を鍵反応としたアルデヒド **2** の合成及び Cystothiazole A の全合成を報告している<sup>2)</sup>。今回、Melithiazole C、F、G、I の全合成及び構造決定を検討した。

【結果】 Pd(II) 触媒下の環化-カルボニル化反応<sup>1)</sup>を行った後、左半分に相当するアルデヒド **2** を合成した。次にホスホニウム塩 **3**、**4** とアルデヒド **2** の Wittig 反応により目的とする Melithiazole C、F、G、I の全合成を達成した。現在これらの生理活性を調べることにより天然物の絶対構造の決定を検討している。



- 1) Kato, K. Nishimura, A. Yamamoto, Y. Akita, H. *Tetrahedron Lett.*, **2001**, 42 4203.
- 2) Kato, K. Nishimura, A. Yamamoto, Y. Akita, H. *Tetrahedron Lett.*, **2002**, 43 643.